

- 一、本書は主として家庭における病氣治療の指針として編述した。
- 二、本書に収録したスペクトル写真と光線に関する記事については、理学博士・工学博士二神哲五郎先生の高教を煩わしている。
- 三、治験例にある病名は診察をした医師の診断により、その経過は患者の自訴による。
- 四、光線治療法と光線治療局所は著者の創案である。
- 五、本書に掲載した疾患部の写真は著者の診療所において撮影したものである。
- 六、本書には、光線治療の特長、効果、動植物実験と光線研究の動機を加えた。
- 七、この光線治療は「可視総合光線療法」と記すべきであるが、以下「光線治療」と略称する。
- 八、文献として医学博士・農学博士柳沢文正、医学博士長島恒義両先生のご厚意による実験を記録した。
- 九、治療用カーボンの記載方法について
 例えば「治療用カーボン30000—50000番」と記載されている場合は、30000番の治療用カーボンと50000番の治療用カーボン各1本ずつを光線治療器にセットして治療する。
- 十、治療用カーボンの組合せが二つ以上記載されている場合は、それぞれの組合せの中から患者が良感を得る組合せで治療を行う。

目次

口絵（遺伝の原理を示唆する色／人体内臓腑／光線研究の対象となった治療用カーボンのスペクトル／光線治療器／代表的な治療用カーボン／褥創の治療経過） 3

序 35

光線療法の特長とその効果 38

凡例 40

第一章 光線療法の発展

光線研究の動機 61

太陽光線治療器とその発明者 64

光線学者の門をたたく 66

東京に研究所を開設 67

開業後三年までの概況 68

動植物実験のデータ 69

世界大戦中に光線治療は陸軍航空部隊と海軍潜水艦乗員の治療に採用された 72

光線療法無害の実験(その第一回) 87

光線療法を東京大学物療内科で実験(その第二回) 88

第二章 光線療法の効果 91

第三章 可視総合光線に含有する光線 97

太陽光線治療から可視総合光線療法まで 98
人体内蔵図 102

第四章 光線研究の対象となつたスペクトル 104

治療用カーボン(炭素電極)番号・弧色(発光色)・適応 105

第五章 光線照射法 108

照射方式と光線 108

照射時間 110

照射角度 110

照射距離 111

電流の調節 113

集光器の符号と原理 113

照射局所 115

照射局所番号 131

照射局所図解と局所番号 132

照射準備 134

症状の考察 135

第六章 光線照射の反応 137

鎮痛作用 137

消痒作用 138

肉芽発生作用 139

血圧 140

睡眠 140

食欲 141

体温(解熱作用・発熱作用) 142

腫脹吸収(化膿促進) 144

第七章 家庭の健康

健康保持の光線照射	147
生物に共通する生存の鉄則	148
家庭の光線治療メモ	149
卒倒	150
発熱	150
頭痛	151
めまい	151
動悸、息切れ	152
眼にごみが入ったとき	152
毒虫に刺され、または毛虫に触れたとき	153
手足等に異物を刺して抜けないとき、のどに魚の骨を刺したとき	153
美容と光線治療	154
長命と光線	157

第八章 小児科

小児治療上の注意	161
夜驚症・小児吐瀉症・栄養不良	163
百日ぜき	164
回虫	166
遺尿症	166
腺病質	167
小児麻痺	168
麻疹（はしか）	171
先天性股関節脱臼・斜頸	172

第九章 老衰科

老衰病について	176
腰曲がり	176
肥満症	177
精力減退	181

第十章 産科

ツワリ	184
胎児の発育	185
妊娠腎	186
子癇	187
無痛分娩	189
産褥中の光線照射	191
四十歳前後の初産	192
子宮外妊娠	192
流産後の光線照射	195

第十一章 婦人科

婦人病治療の心得	198
子宮ガン	199
外陰部炎症	201
子宮内膜実質炎	203
子宮筋腫	204
卵巣嚢腫	206

卵管炎	206
子宮後屈・子宮癒着	207
月経不順	209
不妊症・子宮発育不全	209
慢性婦人病	211

第十二章 呼吸器科

肺尖カタル	213
急性・慢性気管支炎	214
喘息(気管支性・心臓性)	214
肋膜炎	216
肺結核	219
肺結核と併発症	220
結核性髄膜炎	229
声かれ	231
肺化膿症	232

眼へのエネルギー供与 235

視力検定 237

近視 238

乱視 243

斜視 244

遠視(老眼) 244

色盲 245

結膜炎 246

睫毛乱生症 247

眼瞼下垂症 248

角膜炎 249

夜盲症 251

バセドウ病 251

風眼 253

ものもらい 254

白内障 255

緑内障 256

黒内障 258

涙嚢炎・涙鼻管閉塞 259

失明予後症 259

眼底腫瘍 260

第十四章 内科

食道狭窄症(食道ガン) 266

肝臓病(肝臓炎) 268

脾臓炎 270

脾臓ガン 271

腹膜炎 273

腎臓諸症 274

心臓諸症 279

脚気 286

カゼ 287

糖尿病 288

高血圧症(血圧亢進症)

290

中風症(脳卒中後遺症)

292

胆石症 296

動脈瘤・静脈瘤 297

痛風 299

第十五章 消化器科

300

胃ガン 300

胃潰瘍 303

胃下垂 305

胃酸過多症 307

十二指腸潰瘍 308

胃拡張症(胃アトニー) 309

胃痙攣 310

腸炎 311

腸チフス 314

虫垂炎(盲腸炎) 315

腸狭窄 319

便秘 321

アルコール中毒症 322

麻薬中毒 323

食物中毒 325

第十六章 運動器および体質科

327

治療準備 327

筋肉リウマチ(筋痛) 328

急性関節リウマチ 329

慢性関節リウマチ 330

変形性膝関節症 332

神経痛 333

打撲性神経痛 339

運動神経衰弱症 340

ヘルペス神経痛(帯状疱疹) 341

五十肩 342
腰椎椎間板ヘルニア 343
むち打ち症 343
ヒョウソノ（瘰癧） 344
肩こり 348
神経衰弱（不眠） 348
癩癧（てんかん） 349
強皮症 353

第十七章 外科

切り傷 357
熱傷（やけど） 359
腫れもの 372
捻挫 374
打撲傷・骨折 375
歯痛 378
歯槽膿漏・歯槽膿瘍 380

歯の強化照射 381
アクチノミコーゼ（放射菌病） 382
脱疽（だっそ）・壊疽（えそ） 384

第十八章 耳鼻咽喉科

《耳の部》

急性中耳炎 393
慢性中耳炎（穿孔性） 395
急性乳様突起炎 396
耳下腺炎 398
限局性外耳炎 398
鼓膜炎 398
鼓膜破裂 399

聾 399

《咽喉の部》

扁桃腺炎 400
舌ガン 403

蓄膿症 404

急性鼻炎 405

急性化膿性鼻炎 406

慢性萎縮性鼻炎 406

慢性肥厚性鼻炎・鼻中隔彎曲 407

鼻茸 407

第十九章 皮膚科

皮膚病治療中の心得 409

湿疹 411

痒疹 417

白癬 419

水虫 421

汗疹(あせも) 427

ニキビ(尋常性瘡瘡) 427

凍傷(しもやけ) 428

皮脂漏 429

白斑(尋常性白斑) 430

丹毒 431

チヨウ・ヨウ 434

象皮病 438

陰囊水腫 439

じんま疹 440

脱毛病(無毛症) 441

結核疹 446

第二十章 生殖器科

勃起不能 448

不感症 449

淋疾 450

前立腺肥大症 457

睾丸炎 458

尿道炎 461

軟性下疳(疳瘡) 461

梅毒 464

脳梅毒 465

膀胱炎 466

第二十一章 肛門科

肛門病概観 472

痔瘻 472

痔核 475

脱肛 476

痔裂(切れ痔・裂け痔) 477

肛門周囲炎・肛門周囲膿瘍 477

第二十二章 その他の疾患

骨結核(カリエス) 480

骨膜炎 485

足首から切断を要すると診断を受けた骨膜炎 489

脛骨カリエスで手術二回後再発悪化し三か所の病院で不治の診断を受けたもの 491

右手前腕(橈骨・尺骨)の複雑骨折で三〇日間固定したが接着不能で、整形手術を要すると診断を受けたもの 492

八十一歳婦人の大腿骨骨折 495

整形手術三回がいずれも不成功であったが光線治療九八回で半ば整形 496

左前頭蓋骨切創、前額骨破損並びに右頭蓋骨切創による後遺症 498

悪性皮膚炎 500

突き眼 502

第二十三章 難症の臨床例

死亡と診断された人を光線で蘇生させた四例 504

原爆症患者の光線治療 514

心房中隔欠損症の光線治療 545

猿島肝炎 547

カネミ油症(厚生省二〇〇万円、科学技術庁三三四〇万円、三年研究して不治と決定した病)を光線治療で治した臨床例 549

ハンド・シユルレル・クリスチャン病 554

先天性外骨腫症 556

朝日新聞で不治と報道された脳虫症が光線治療で治る 558
六三〇〇グラムの男の子、光線治療三か月で無事分娩 559

世界大戦に寄与した光線治療例三例 561

結核性骨膜炎に合併した気管支炎、膿胸

(余命一〇時間と診断された命を二一年延ばす) 565

胞状奇胎剔出手術の予後、子宮脈絡膜炎で危篤 566

重篤の胆石症(七名の名医さじを投げる) 566

不治と診断のネフローゼを光線治療で治す 567

腰椎カリエスの光線治療例 568

第二十四章 遺伝と光線

可視総合光線 571

近赤外線的作用 572

可視線の反射 572

生物の色 573

可視線の波長と変化 574

色と動物 575

地球に対する三つの警告 576

豪州の小麦も半減 579

大国の国際的買い占め 579

進む高緯度の寒冷化 581

一粒の瓜の種、地球の危機を救う 582

生物の将来 582

結び 584

第二十五章 研究論文

放射線生理学の姿

都築正男氏

588

皮膚の色と疾病の関係

日本東洋医学会理事・医学博士 松下嘉一先生

591

炭素弧光灯の光線による血液PH並びに血清電解質の変動に関する研究

医学・農学博士 柳沢文正先生

592

光線(可視総合線)治療の医学生による臨床文献二例 619

右側肺浸潤と肝炎を併発せる左側重症特発性自然気胸の一治験例に就て

医学博士 岡田良穂先生

医学博士 長島恒義先生

疼痛性疾患に対する可視光線療法（文献二十例）

医学博士 長島恒義先生

特殊光線（光研燈）照射による外科的疾患の治療効果（第一報）

横浜医科大学外科学教室 今井 孝先生

622